

「森の奥停留場 6月2日」・登場人物表

稲城わかば  
八幡つつじ

三笠駅の助役  
三笠駅の駅長

登戸ゆう  
伊勢原すず  
仙川やよい

三笠駅の運転士。現在は駅務係として勤務  
三笠駅の車掌。現在は駅務係として勤務  
三笠駅の運行管理士。東京から赴任してきた

ひま

三笠の住民。東京へ行きたいと考えている

1. 三笠駅下り方ホーム・午前9時・外

発車間際の列車が待つホームには、八幡つつじと稲城わかばが向かい合って立っている。列車に乗り込もうとするつつじは、振り返って若葉に言う。

八幡つつじ 「夕方には、戻るからね」

つつじに話しかけられたわかばは、つつじにっこり笑いかける。

稲城わかば 「はい、葦野（カサノ）の銀行ですよね」

つつじ 「うん。じゃあ、駅をよろしくね？」

わかば 「はい、いつてらっしゃい。つつじさん」

つつじ 「行ってきます」

列車に乗り込むつつじ、小さく手を振るわかば。

列車の扉がしまる。列車の進行方向を向く。手に持った信号旗を、進行方向に向けて、鋭く笛を吹く。

わかば 「列車進行支障なし。行き先小田原、本線1番」

M…オープニングテーマ

三笠駅から滑り出る列車。やがて駅から離れて進んでいく。

2. 三笠駅下り方ホーム・物干しスペース・午前10時半・外

洗濯物を干しているわかば、最後のシーツを干し終えて腰に手を当てて伸びをする。

わかば 「最近よく晴れるのは嬉しいですけど、少し晴れすぎかも  
しれませんか」

一息つくつと、ホームから登戸ゆうの鋭い声が聞こえる。そちらの方向を向くわかば。

登戸ゆう

「列車進行支障なし。行き先東京、本線2番」

しつかりとした声に、頼もしく思うわかば。少し笑って、発車する列車を見送る。少し眩しいので、手を目の上に当てている。

列車がホームから出場すると、奥に留置している真新しい列車が見える。それを見て笑顔になるわかば。

ゆうがホームから声をかける。

ゆう

「わかばさん！ わかばさん、ちょっといいですか？」

少し首をかしげるわかば。

わかば

「はい？」

3.

三笠駅改札口・午前10時半・内

改札口へ戻ると、仙川やよいが制服を着て立っている。足元には荷物が置いてある。奥の改札ラッチには、こつちを伺う登戸ゆうが立っている。

少し困った表情のゆうは、わかばの様子をうかがっている。声をかけるわかば。

わかば

「あの、どちらの管区の方ですか？」

仙川やよい

「あの、あなたが駅長さんですか？」

わかば、やよいのつっけんどんな態度に、少し驚く。手を前に出して、困ったように言う。

わかば

「ああ、いや。つつ、駅長は只今不在でして、助役の稲城です」

やよい

「私、この駅で勤務することになっている、仙川やよいです」

まじまじとやよいの顔を見つめ、はたと気がつく  
わかば、思わず声がでる。

わかば 「あ、あ！」

ふっと電気が消える。改札が少し薄暗くなる。

わかば 「あ」

4.  
三笠駅駅務室・午前11時・内

お茶を机の上に差し出すわかば、部屋の端にある  
黒い電話で何やら話し込んでいるゆう。座ってい  
るやよいは、その様子を眺めている。電話を切っ  
てわかばに話しかけるゆう。

ゆう 「どうも管区が全部停電しているみたいですね」

わかば 「じゃあ広域を停電に切り替えておきましょうか」

ゆう 「わかりました」

わかば、やよいの目の前に座る。

わかば 「最近雨が少なかったから、よく停電するんです」

何事もないように笑うわかばに、やよいが怪訝な  
顔をする。

やよい 「あの」

やよいの顔に気がついたわかば、両手を体の前で  
合わせて笑う。

わかば 「あ、ごめんなさい。えっと、あそこに座っているのが登  
戸ゆうさん。この駅の運転士です」

ゆうこちらを少しむいて、軽く手を挙げる。

ゆう 「ハロー」

わかば 「それと改札にいたのが、伊勢原すずさん。車掌さんで  
す」

相変わらず納得していない顔のやよいを見たわかば、説明が足りないと思い付け加えようとする。

やよい 「あの、そうじゃなくて」

わかば 「え？」

固まるわかば、怪訝な顔をする。わかばをじっと見つめているやよい。

やよい 「こんなにのんびりしていて良いんですか？」

わかば 「え、うん。ダメですか」

やよい 「なんだか、イメージと違います」

わかば 「えっと。まあ、町田からこっちは本数も少ないし」

苦笑いしたわかば、やよいの表情を伺う。

やよい 「私は、何をすれば良いですか？」

わかば 「いや、今日は別に」

わかば言いかけるが、何かを思いついて笑いながら続ける。

わかば 「じゃあさ、やよいちゃん」

5. 三笠駅駅務室・正午・内

野菜炒めを乗せた小皿と、白米がよそわれた茶碗などが並ぶ机。椅子に腰掛けながら、思わず声を漏らす伊勢原すず。それを見て微笑むわかば。

伊勢原すず 「おー」

相変わらず怪訝な顔をしているやよいは、不満そうに言う。

やよい 「一応作りましたけど」

すず 「やよいため！」

やよいは眉をひそめると、すずを見つめる。それを見てクスクス笑うわかば。

やよい 「変な名前つけるのやめてください」

わかば 「ささつ、食べちゃいましょう」

野菜炒めを口に運ぶわかば、一口食べると少し笑顔のまま固まる。すずとやよいはその様子をじっと見つめている。

わかば 「ん、えっと。お砂糖入れた？」

やよいは何もわからないといった表情で、わかばに答える。

やよい 「はい。入れました」

わかば 「んー」

笑顔のまま首をかしげるわかば、それを見たすずは不思議そうに自分も一口運ぶ。すると、すずは少しうめき声をあげる。それを見るやよい。

すず 「オエエッ…。…このツンとするのは」

やよい 「ワサビです。甘辛くしように思っって」

すずは俯いて首をかしげる。

すず 「甘辛く」

その反応を見たやよいは、少し首をかしげて自分も一口運ぶ。少し口を動かすと、やよいも首をかしげる。それを見るわかばとすず。

やよい 「少し、想像と違いますね」

わかばはそれを見て苦笑いする。がっくりと肩を落とす、すず。

すず 「ハー…」

6. 三笠駅改札口・午後1時・外

誰もこない改札ラッチに一人佇むやよい。遠くの景色を見つめつつ、ため息を吐く。すると、見知らぬ声がすぐそばから聞こえる。

ひま 「あの」

やよい 「はい？」

少し怪訝な面持ちで声のした方向を向く。するとすぐそばに少女が立っていた。

ひま 「東京に、行きたいんです」

やよい 「え？」

7. 三笠駅駅務室・午後1時・内

少し泣きそうな顔になっているひまが、座っている。その後ろで不満そうな顔をしながら立っているやよい。二人を苦笑いしながら見つめるわかばとすず。

わかば 「あのね、東京までの切符は300円するんです。12円じゃ東京まで行けないんですよ？」

やよい 「さっきからそう言ってるんですが」

すずは、肩を上げていう。

すず 「言い方だよね」

やよいに睨まれるすず。すぐさま目をそらす。それを見ていたわかばは、少し困って笑う。

ひま 「じゃあ、足りない分はここで働きます！」

すず、少し驚いて体を仰け反らせる。

すず 「えーっ」

やよい 「どうするんですか」

頭を抱えるわかば。

ひま 「お願いします」

ひまの真剣な表情を見つめるわかばは、笑っている。  
う。

わかば 「わかりました」

すず、さらに驚いて体を仰け反らせる。

すず 「エーッ」

わかば 「えっと、お名前は？」

ひま、やる気に満ち溢れた表情でわかばを見つめる。やよい、すずはその様子を驚いた表情で見つめている。

ひま 「ひまです！」

8.

三笠駅改札口・午後3時・外

誰もこない改札でラッチの中に立つ、やよいとひま。黙々とてるてる坊主を作っている。

ひま 「ひまです」

下手くそな顔を描き込んだやよい、思わずつぶやく。  
く。

やよい 「私、何やってるんだろう」

自身の仕上がりを見て少し首をかしげる。

やよい 「想像と違う」

ひま、顔を描き込んだ自分のでてる坊主をラッチの中の台に置く。

ひま 「下手クソですね」

やよい 「うん」



(間)

ひま 「これが駅員の仕事ですか」

ひまの問いかけに、やよいは少し首をかしげる。

やよい 「さあ」

改札窓口から顔を出したわかばが二人に声をかける。振り返る二人。

わかば 「ねえねえ、2人とも」

9.

三笠駅下り方ホーム・午後3時半・外

物干し竿にぶら下がる逆さテルテル坊主。洗濯物を取り込んだやよいとひまは、ホームのベンチに座っている。キュウリを抱えて近くに歩いてくるわかば。

わかば 「いやあ、ありがとうございます。一人だと大変ですからね」

手に持っているキュウリを一本ずつ二人に手渡す。

わかば 「はいこれ。採れたてですよ」

戸惑う二人を笑顔で見つめ、横に並んで座る。キュウリにかぶりつくわかば。満足そうに微笑む。それを見た二人も、そろそろと食べ始める。

わかば 「それで、どうして東京に行きたいんですか？」

ひまは、わかばの方を向いて、しばらくして視線を手元に落とす。

わかばは、ずっとひまの方を見て微笑んでいる。

ひま 「言わなきゃだめですか？」

わかば 「ううん、すこし気になったですから」

少し考えたひまは、意を決したように話し始める。

「私、お医者さんになって。助けたい人がいるんです。だから、東京に行けば、そのための勉強ができると思ってた」

わかば、にこりと笑ってひまを見つめ、すぐに空を見つめる。それを黙って見つめているやよい。

わかば

「あ、雨が降りそうですね」

遠くから雷の音が聞こえる。

10.

三笠駅駅務室・午後16時・外

駅務室の中、外は激しい夕立。窓の外を見つめるわかば。外の様子が気になりつつも、チラチラとわかばの様子を伺うひま。その二人を見つめるやよい。ゆうとすずは、二人で昼寝をしている。

アナウンス

「こちら金崎司令。現在の運転規制についてお知らせします。東京北から町田東まで二〇キロの運転規制。吉田第二大橋は雨量制限の為、現在通行ができません。大隅高須から三笠まで現在運転抑止中です。カサノから田辺まで十二キロの運転規制。早掛沼から正津川まで現在運転抑止中です。それ以外の区間は現在十キロの運転規制中です。以上」

わかばが二人に笑いながら話しかける。

わかば

「二人に作ってもらった逆さ坊主、すごく効果がありますね！」

何かを言おうとするすず、それを見たわかばは外を眺めつつ言う。

わかば

「ひまわりってさ。ずっとお日様のほうを向いて、偉いと思うんです」

わかばの表情を見つめるひま。

わかば 「私ならきつと、眩しくてずっと向いていられないですよ」

窓の外に指をさすわかば、ずっとやよいはその先を見つめる。雨に打たれて頭をたれるひまわり。

わかば 「でも。ひまわりだって、たまに雨が降ると、少しだけ休憩するんですね」

につこりとひまを見つめるわかば。ひま、照れくさく思い目をそらす。

雨音が弱まる。わかば外を見て言う。

わかば 「ん？ もう止みますかね」

## II. 近くの坂道・午後17時・外

雨上がりの坂道を、わかば、やよい、ひまが歩いている。わかばは手にカゴを持っている。何かを話している3人。立ち止まるひま、つられて残りの二人も立ち止まる。

ひま 「あの、もうここから帰れます。家は近くなので」

わかば、少し微笑んでひまを見つめる。やよい、その様子をじっと見つめている。

わかば 「そっか。あ」

何かに気がついた様子のわかば、手に持っているカゴから二枚の切符を取り出し、笑顔でひまに手渡す。一枚は三笠から東京への切符、もう一枚は東京から三笠への切符で、有効期限を示す日付印は押されていない。

わかば 「はいこれ」

ひま 「え？」

怪訝な顔でわかばを見上げるひま、わかばは笑って言う。

わかば 「約束ですからね」

ひま、少し目を伏せて言う。

ひま 「ありがとう」

わかば 「無くしちゃダメですよ？」

ひま 「うん！」

12.

近くの町道・午後17時半・外

町から駅へ戻る町道。夕日はすでに山の向こうに隠れようとしている。ゆつくり歩く二人。笑顔でわかばが言う。

わかば 「よかったですね、お肉買えて」

やよい何かを考えているような表情をしている。それを微笑みながら見つめるわかば。

やよい 「あの、わかばさん」

わかば 「あ、やよいちゃん。今、私のこと名前で呼んでくれましたね」

満面の笑みでやよいを見つめるわかば。やよいは恥ずかしくなって目をそらす。

やよい 「その、なんだか想像と違うんです」

わかば 「この駅？」

やよい、何かを言おうとするがうまく言えない。その様子を見たわかばは、少し笑って歩き出しながら言う。

わかば 「焦らなくていいんです。私たちの仕事は、待つことなんですからね」

少し微笑んで頷くやよい、わかばの後ろを歩き始める。

やよい 「そうですね」

ゆつくり駅へ歩く二人。

M…エンディングテーマ

わかば (N) 「6月2日、今日はこの駅に運行管理士のやよいちゃんが

新しくやってきました。料理はイマイチだったけど、これから毎日楽しくなりそうです」

(終わり)